

(様式6-2)

研究成果概要

所属学校名 三重県立菰野高等学校

職・名前 教諭 森谷 清香

- 1 事業の名前 特別支援教育内地留学
- 2 留学先の名称 三重大学 教育学部
- 3 研究主題 個別の支援を必要とした生徒の就労継続に関する現状と課題
人間関係に焦点を当てて

4 研究成果の概要

就労継続の問題について、在学中、学校や教員が丁寧な個別の指導を行ってきた生徒たちを対象に、調査を行った。就労の継続において重要と思われるものの一つとして、人間関係に注目し、家族、友人といったプライベートなつながりと、職場の同僚や上司といった公のつながりに分け、卒業後の対人関係が、離職や病気、職場への定着にどのように関係していくのかについて考察した。

調査の結果、職場でのつながりが弱く、学校から社会への移行がスムーズに行われていないことが分かった。仕事に困難を抱えた際に、職場に安心できる居場所や、気軽に話ができる人間関係がなかったほとんどの者が、離職や病気につながっていた。受け入れる側の企業は、就労の継続には、職場に安心できる居場所が必要であることや、職場での人間関係の構築に対する配慮が必要であるということを重視する必要があると考える。さらに、職場での困難を解決するにはいたらないが、家族や友人といったプライベートなつながりが支えとなり、問題が改善されるまでの猶予となっているケースもみられた。このことから、学校においても、人とのつながりを重視する視点を再認識する必要があると考える。就労継続問題に対して、就労への意識を高める指導や、技術の習得を重視することは大切なことである。しかし、卒業後に生徒達を支えていく人間関係も、就労の継続に大きく影響すると考える。そのつながりは、離職対策の直接的な解決の手段とならなくとも、困難を抱えた者たちを支える、大きな役割を果たすと考えられる。

また、職場でのつながりの弱さとして、卒業生から職場への働きかけも弱い傾向がみられた。職場で困っていることを上司や同僚に伝え、相談していく相談力が不足している。そのため、相談という段階を踏まずに、結果的に離職という決断にいたっている。学校においても、生徒たちが自分で考え試行錯誤する機会を、更に増やしていくことが必要であると考え。教師は忍耐強く生徒たちの失敗を見守り、やり直しをサポートすることが大切である。そのことの積み重ねによって、生徒たちは自分の直面した困難に、主体的に向き合っていく力を身につけることができるのではないかと考える。いわば、人を教える視点から、育てる視点へ重点をおく必要がある。

就労継続の問題は、企業、学校だけの問題でなく社会の問題であり、多角的に、総合的に取り組んでいく必要がある。学校においても、周囲とのつながりの大切さを重視する視点に立った指導、相談力を重視した指導を、改めて考えていく必要がある。